

福島第一原子力発電所 H-4およびH-4東タンクエリアにおける 基礎コンクリートのひび割れについて

< 参考資料 >

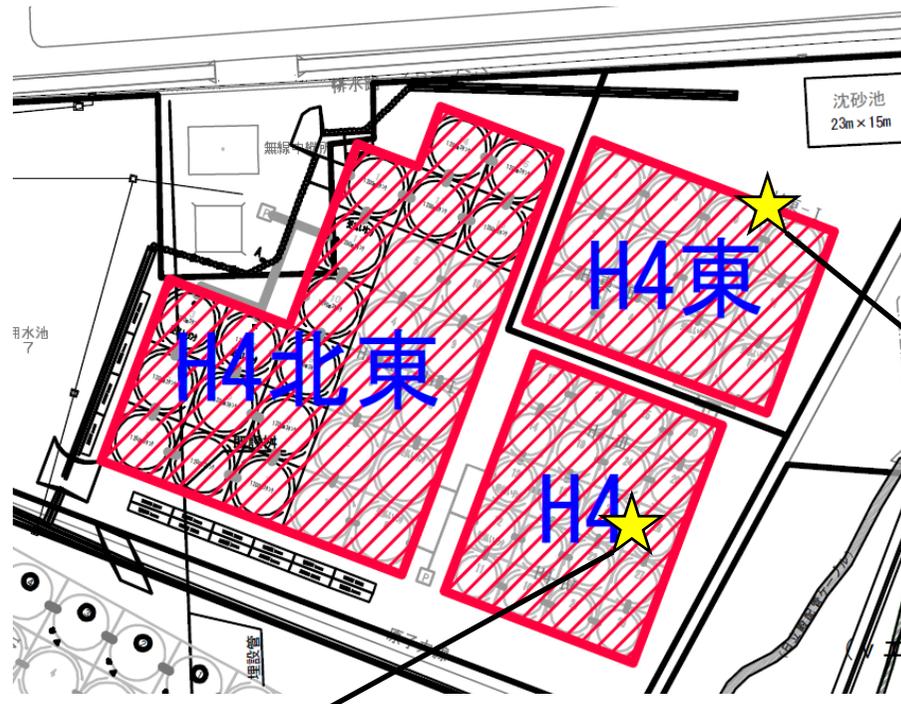
平成26年2月12日

東京電力株式会社

ひび割れ確認の経緯

- 平成26年2月11日のタンクパトロールにおいて、H-4およびH-4東タンクエリアの基礎コンクリートでのひび割れ(亀裂)を確認。
- ひび割れの状況
 - ひび割れ規模
 - <H-4>長さ約12m
 - <H-4東>長さ約8m
 - いずれの場所も確認時は当該ひび割れ箇所にはたまり水がない状態
- ひび割れの確認経緯
 - 平成25年12月、当該のクラックは微小クラック（開口していないもの）として認識。
 - このときは、劣化目地・オープンクラックについてエポキシ樹脂により止水補修を実施。
 - 補修後、平成25年12月26,27日に堰内水張り試験を行い、水位低下が無いことを確認（これにより、堰全体の止水性に対する健全性を確認）。
 - 当該クラックに関しても止水性が確認されている状況。
 - H25年8月のタンク漏えい以降、当該エリアの堰内も恒久的な止水工事としてウレタン塗装を計画。準備工としてコンクリートの表面清掃を実施したところ、クラックが明瞭となった。

ひび割れ確認場所・状況



H-4東エリア



H-4エリア

今後の対応

- 念のため、当該エリア周辺の土壌の回収を実施する。
- 今後、ウレタン塗装が完了していないエリアのひび割れ状況の総点検を実施する。
- 目地，コンクリートひび割れに対する抜本的な対策としては，現在実施中のウレタン塗装による堰内被覆を早急に完了させる。
 - H5エリアは対策完了
 - H4・H4東エリアは実施中
(タンク部材と基礎との間詰め処理を概ね完了。塗装は2月下旬目途完了)